

2016年度の終わりに…

仲嶺 真弓

2016年度のつばさっ子最終回です。2016年度の最終園児数は114名、職員は28名でした。

今年度は23名の5歳児の子どもたちがこのつばさ共同保育園から巣立っていきます。どの子どもも自慢のつばさっ子。残り1か月最後の最後まで私たち職員も、子どもたちとの保育園での生活を心に刻みたいと思います。ここ数か月のつばさっ子の“おやおやルーム”ページの保護者のメッセージを読み返し、つばさ開園の時は1歳児クラスだった子どもたちがもう卒園を迎えるのかと、じわじわと思い出がよみがえってきます。3歳時期は姉妹園のアトムの建て替えのため、仕切りをした広いホールの保育室で過ごしたときが懐かしくもあります。思い起こせば、保護者の方には、どんな時も静かに見守ってもらえていたと感じています。時にはここが心配なんだけど大丈夫？というメッセージも発信してもらいました。そのたびに大事なことは何かを初心に帰って考えることができました。投げかけてくれたことは忘れずに、今後に活かしたいと思います。ありがとうございました。

今年度は職員の体調不良が目立った年でした。職員の高齢化…？ いつまでも若くはない。自分の加齢を自覚して、無理のない働き方ができるようそれぞれが考えていくこともこれからの課題かと実感しています。職員の健康確保のための職場づくりも園長の役割の一つと考え、職員とのやり取りも引き続き、重ねていきたいと思っています。今年度は少しでも働き方の軽減に繋がればという理事からの発案で、午睡時間中の2時間のパート職員を募集し、子どもたちの午睡中の安全もしっかり確保、職員も日報を書く手を止め休憩をとれるようにしました。結果、休憩室からは職員の笑い声や雑談する声が以前よりも多くなったように感じます。また2時間パート職員も地域の方が引き受けてくれているので、地域の方に園のことを知ってもらえるいい機会にもなりました。

今年度も含めここ数年、私は園長として、どちらかというと裏方に徹してきました。なぜそうしてきたのかの理由は、何をやるにしても、子どもと保護者の一番近くにいる各職員自身が、何をしたいのか、何のためにするのかを自分のこととして考え行動しないと、やらされている感ですることには意味がないと思ったからです。クラスのこと、行事のことを考え進めていく上でいろいろな場面で職員に問い続けました。職員に嫌な顔やつらい顔をされても問い続けることが私の役割でした。結果、少しずつですがスキルアップしている職員の姿があると手ごたえを感じます。職員の働く環境をよくしていくことは、子どもたちの保育環境をよくしていくことに繋がっていると考えています。今後も精進していきたいと思っています。

最後に…つばさの給食室も5年が経ち、しっかり歴史を刻んできました。歴史を刻んでくれた村井がこの3月で退職することになりました。「出汁」にこだわり、次の夢に向かっての退職です。本人からのメッセージは別ページをご覧ください。そしてもう一人、現在アトムで働いている鎌田も体調を崩し退職することになりました。退職後もつばさからエールを送り続けたいと思います。お疲れ様でした。

【後期総括会議がおわりました】

アトム共同福祉会では、年に2回（9月と2月）、2園（アトム共同保育園・つばさ共同保育園）合同職員総括会議を行っています。今年度も2月19日（日）に9時～13時の4時間をかけて後期総括会議を行いました。

今年度の後期総括会議の内容は、

- ①各部署（保育士0歳児～5歳児クラス・給食&夜間・看護師・事務員・主任）の一年の振り返り
- ②園でできる親支援について
- ③アトム・つばさ どんな職場にしていきたいですか

①については、専門性を活かした働き方を考えることを目的に各部署に分かれて今年度を振り返ると同時に、来年度に引き継ぐことをまとめました。

②についての話し合いは新しい試みで、フランスの保育園事情の資料を読み、園でできる家族支援がないか意見交流をしました。資料を簡単に抜粋すると、フランスと日本とでは保育園についての定義が大きく違う。日本の保育園は「児童福祉…子どものため」の場所とされているので、子どもの保育園生活のために親に求められることが多い。たとえば、毎日の「持ち物」名前を記入した紙おむつ、着替え、タオル類など、「保育園での生活必需品」を親が毎日揃え、お昼寝の布団も持参、使用済みの紙おむつも各家庭に持ち帰るのが一般的。フランスの保育園は「親が仕事と家庭生活を両立させるための支援」と定義されているので、そのほとんどが「手ぶら通園」。保育園に子どもを託す親には時間がないのだからその親に通園のための負担をかけることは本末転倒という考え方があるという資料でした。フランスの保育園の全てがよしも思わない。けれど、フランスの保育園事情は、これからも子育て支援を考えていきたい私たちにとってはとても衝撃的な内容でした。他国の保育園事情を知ること、今自分たちがやっていることはどんな意味があってやっているのだろうか…、もしくは、時代の流れとともに意味を成さないこともあるのではないかという話になり、今まで当たり前にしてきたことを見直す方がいいのかどうか、一つひとつのことについてじっくり考え検討していこうという結論に至りました。このテーマについては新年度も引き続き、両園でともに考えていきたいと思っています。

③は自分たちの働きやすい環境についてさまざまな意見交換をしました。